

本学・アライアンスの県立大学をはじめ、県内大学等の関係者約1.2万人に2週間で接種

- ・ コロナワクチンの「**大学拠点接種**」をいち早く開始（6/22～）。附属病院の医師・看護師等でチームを編成し、学生・教職員等への接種を実施（東北大・広島大・徳島大（6/21開始）の翌日から開始）。
- ・ 「**大学アライアンスやまなし**」の枠組を活用し、**山梨県立大学の学生・教職員への接種を実施**。
- ・ さらに、協力要請があった他の県内大学・専門学校の学生及び教職員への接種を実施。
- ・ 独自の予約システムを整備し、これまでワクチンの廃棄なし。
- ・ **県知事からの直々の依頼**により、障害者施設職員・山梨県トラック協会関係者等への接種も実施。
- ・ 島田眞路学長は「**地域のために本学のリソースを最大限活用する**」と、地域貢献の意義を強調。

医療従事者約4千人を含むと既に約1.6万人

➡ 外部からの協力依頼に対し日程等を即断。スピーディーに実施。



接種を受ける職員

大学拠点接種の状況（7/9時点）			
日付	大学名等	人数	場所
6/22～7/2・7	山梨大学 (学生・教職員・家族)	約4,700	山梨大学
7/3	山梨英和大学	約600	
7/4～7	各種専門学校（14校）	約900	
7/6・7	身延山大学	約100	
6/29～7/6・8	障害者施設職員	約2,500	
7/2・3・5～9	山梨県立大学	約1,300	山梨県立大学
7/2・3・5～9	山梨学院短期大学	約1,800	
合計		約12,000	

山梨大学接種率
(7/6時点)
学 生 : 74.1%
教職員 : 86.7%
合 計 : 79.1%

今後の予定

- ・ 山梨県機械電子工業会（3,300名）
 - ・ 山梨学院大学（1,800名）
 - ・ 甲府商工会議所（2,000名）・都留文科大学（3,500名）
 - ・ 弁護士会（300名）
 - ・ 山梨県トラック協会（2,700名）
 - ・ ヴァンフォーレ甲府（100名）
- （本学から医師・看護師を派遣（延べ60名）し、2日間（8/7・8）で接種予定）



接種後に待機する学生

- ・ 1回目接種の合計が7/6時点で1万人を超えたため、学長・理事が記者会見で状況を説明（副反応がほぼないことなど接種を啓発）。
- ・ 接種数は8月中に3万人（2回目接種）を超える見込。

コロナ患者・ダイヤモンドプリンセス号乗客患者の受入

- ・国大協（R2/1/29）においていち早く警鐘を鳴らし、早速、患者受入の机上訓練をR2/1/31に実施。
- ・ダイヤモンドプリンセス号の乗客患者をR2/2/19に1名受入、以降、3月までに計7名を受入。
- ・附属病院では、これまでにコロナウイルス感染症入院患者118名を受入（7/5時点）。



山梨県初・ドライブスルー方式によるPCR検査体制を確立

- ・山梨県からの要請に基づき、ドライブスルー方式によるPCR検査をR2年5月から附属病院の敷地内で開始（週に2回・1日最大72件の検査可能）。
- ・検体採取から解析まで、全て附属病院で実施。ドライブスルー方式による検査件数は約1,500件、PCR検査全体の件数は約20,000件（6月末時点）。
- ・山梨県内でのクラスター発生時には、臨時で濃厚接触者の一斉検査を実施。
- ・医療機器の購入や人件費は、山梨県からの支援（補助金）により対応。



国立大学病院で初となる大阪府や沖縄県への看護師派遣

- ・附属病院では、文部科学省からの派遣要請に応え、医療の逼迫が深刻な大阪府へ看護師（集中治療部）をいち早く（依頼を受けた2日後の4/19には）派遣。「大阪コロナ重症センター」と「関西医科大学総合医療センター」で治療に従事。
- ・医療の逼迫が深刻な沖縄県にも、看護師（病院長特別補佐等）を派遣。
- ・これまで継続して、大阪府に12名、沖縄県に2名を派遣（4/19～7/6時点）。
- ・派遣時の壮行会・引き継ぎのための報告会を実施。全ての会に学長、病院長が参加。



全国初・教育実習生のPCR検査を導入

- ・教育学部の学生が県内の小中学校などでの教育実習の際、事前にPCR検査を受ける仕組みを全国で初めて導入。

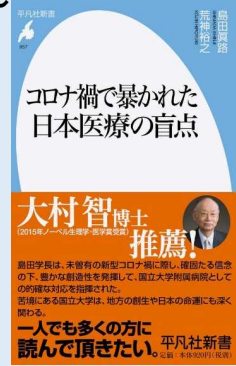
世界初の新型コロナウイルス感染の症例報告論文の日本トップクラスの注目度

新型コロナウイルス感染症により、髄膜炎を発症して本学附属病院に入院している患者の症例報告論文が、感染症に関する国際ジャーナルに掲載された。これは、**新型コロナウイルスが肺炎だけでなく髄膜炎も起こすことを世界で初めて報告した論文**となり、この論文が世界中に有益な情報を発信し新型コロナ研究に貢献する中で、**我が国トップクラスの被引用数**になっている。

タイトル：A first Case of Meningitis/Encephalitis associated with SARS-Coronavirus-2 (SARS-コロナウイルス-2に関連した髄膜炎/脳炎の最初の症例)
掲載雑誌：(2020)International Journal of Infectious Diseases, 94, 55-58.
第一著者：森口武史 山梨大学医学部附属病院救急部長、**最終著者：島田眞路 山梨大学学長**

島田眞路学長 国民にも分かりやすく警鐘
「コロナ禍で暴かれた日本医療の盲点」執筆
～島田眞路学長 自ら率先して情報発信～

島田眞路学長及び荒神裕之特任教授が2020年10月に出版した「コロナ禍で暴かれた日本医療の盲点」(平凡社新書)において、医学部附属病院における新型コロナウイルス感染症に対する取組を紹介。クルーズ船「ダイヤモンド・プリンセス号」の患者受け入れを決めた際の緊迫した様子や、**国内で初めて新型コロナウイルスによる髄膜炎症例の発見に至った経緯**などを詳細に伝えた。



著者 **島田眞路** 他

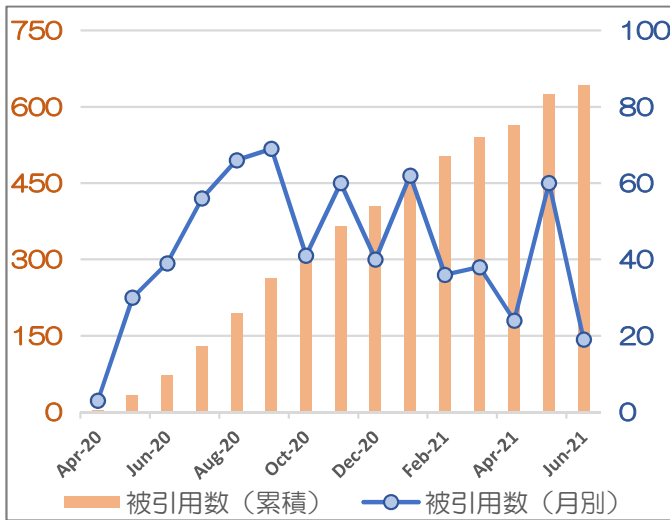


図1 A first Case of Meningitis/Encephalitis associated with SARS-Coronavirus-2の被引用数(累積・月別)

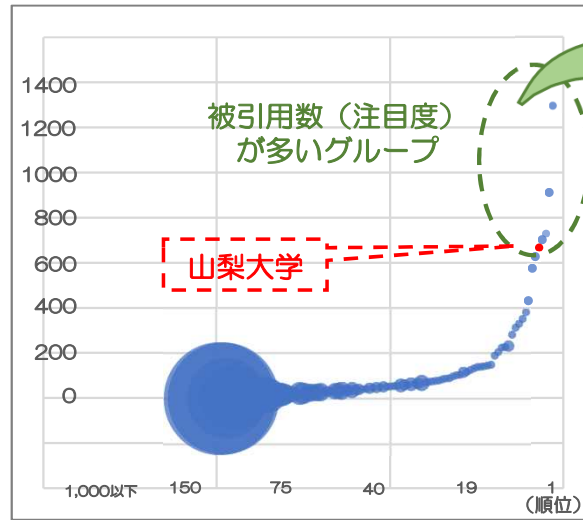


図2 2020年に日本の研究機関が参画して発表されたCOVID-19関連論文の被引用数の分布

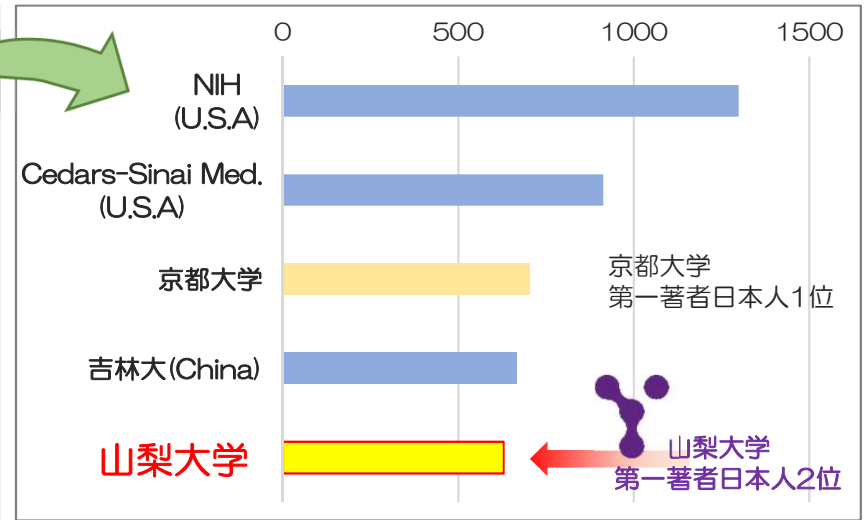


図3 COVID-19関連論文(日本)被引用数上位5件の第一著者と被引用数

論文発表直後から国内学の著名雑誌論文に引用され、**被引用数が大幅に増加**

日本のコロナ関連論文約1,000報のうち、**被引用数は第5位**

2020年に日本の研究機関が第一著者のコロナ関連論文で、**山梨大学の論文被引用数は2番目に多い**
自然科学系全分野で第一著者が日本の研究機関である論文でも日本で**2番目に多く注目**されている

Web of Science調べ (2021.7.1時点)